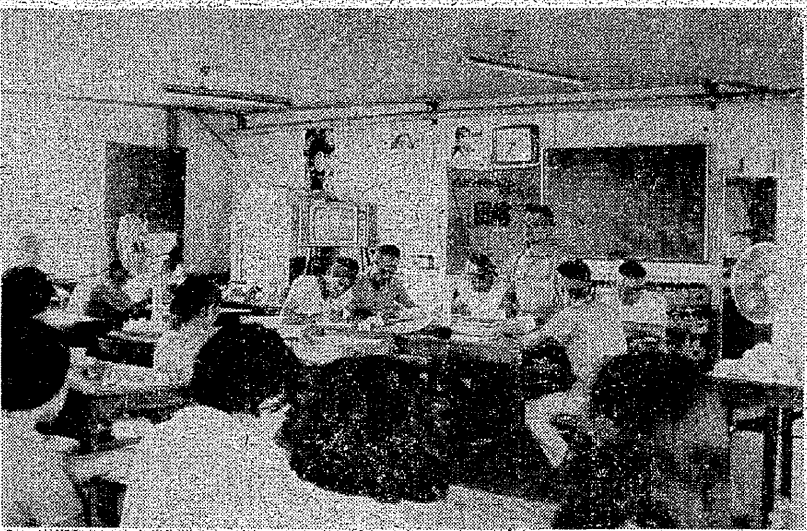


八女市の福島食品は「みいけ生協」からのインスタン
トラーメンなど三池の内部にもおなじみであるが、今年三
月以来、三十七名の指名解雇(全労働者七十七名、第一組
合員五十九名、第二組合員十八名)や擬装倒産などの攻撃が
かけられ、全組合員はいま池田組合長を中心に、物品販売や
アルバイトをしながら明るく、元気に反対闘争を闘いつづ
けている。

情無用の合理化

八女市郊外の福島食品会社
は、インスタン・ラーメンプ
ムにのって上がった一
中
小企業である。組合員の過半数は
女子で、平均勤続年数は十二・三
年、平均年齢は二十八・九才と農
村地帯の工場らしく、比較的温
和な労働者を中心とした企業であ
った。

貿易自由化による食品業界の再
編成はここにおおしよってきた。
製粉業界の大資本は海岸地帯に大
工場をたて、輸入小麦で製品をど
んと作りはじめた。
内陸部にある企業は海岸地帯に
進出するが、小麦粉を製品化して
(例えばラーメンなど)販路を



全員集会で語る池田組合長

資本のもとにつづきと系列化さ
れ、合理化攻撃が情無用で強行さ
れていた。福島食品の場合
も決して例外ではなかった。
突然の倒産通告
福島食品の場合、人員を
約半分にへらし、労働組合をつ
づいて文字通り労働者をゴキ使う
という方法がとられてきた。

三月十八日 第二組合結成、第二
組合員と社長、重役、部長が
スト破りにくる
このようにして、組合員の怒り
はますます高まり、団結はかた
まが、会社のおせりには限る。
三月二十日 地労委あつせん出
る「指名解雇は撤回し、希望退職
募集を行ない、工場は直ちに操
業する」という内容。労使とも

かためる
三月以来、組合員に給料は一
も入らなかつた。組合員は生活の
苦しみや将来への不安から何
もなく動揺したが、会社のおま
りにも恵みとやり方と「仲間の苦
しみを見守る」という気持ちで
みとまってきた。

このほか組合員は企画販売、生
活対策、組織、教育、総務、法
律、調査とわかれた闘争体制に
従事する人のはかば、アルバイト
工場内部での内職に精を出して
いる。
アルバイトは二人一組で仕事に
行っており、月曜日から金曜日まで
働き、土曜日は組合に帰って全

二十七日には六月分を支払われ
ることに成功した。しかし、同時
に一月分の解雇予告手当も同時
に手渡してきた。
長い生活苦の末に、アメをしゃ
ぶらせ団結をつぎつぎと作戦であ
る。闘いは五月分目で新たな局面
をむかえようとしている。
五十九名の組合員は今日も元
気で頑張りつづけている。組合が
すくすく「スクラム」に組合員
アルバイトに出ている夢田スミエ
さんは、つぎのような手記を寄
せている。

「自分たち一人ひとりのために
働きに行っているのに、出張先の
職場のみんなに聞いて話をし
て、また果敢(食品労連の単位)
の取材班の方がカンパの菓子な
どもを、ご苦労様です、と
つづけてもらいましたが、涙が
あふれだした。職場の皆
さんにも一緒に食べてもらいま
した。仕事は苦しいが頑張りいま
す」
連帯と交流を

闘争や一万五千円の生活まで、頑
強に抵抗する福島食品に、いまこ
そ連帯と交流の行動をおこそう
と同じ中身だと思ひます」と池田
増嘉組合長は語っているが、大衆

擬装倒産と闘う福島食品労組 全員で物品販売やアルバイト

操業再開めざし明るく闘う

ひろげる以外に、生きのびる道は
なくなっていた。このようにし
て、製粉会社による食品会社(例
えばラーメン会社やパン会社)の
系列化がすすめられていった。
浮羽郡吉井町に本社をおく島越
製粉は、西日本一の地元資本であ
るが、筑後地方の食品会社は島越

三月五日 全員解雇し、会社倒産
を一方的に通告
三月七日 五日の提案を撤回し、
三十二名の指名解雇を通告
このような攻撃の中で「二休
社は何を考えているのか」とい
う怒りが組合員の間を高まってい
った。希望退職募集はうけ入れた組
合であったが、活動家を中心とし
た指名解雇は組合員をつぶしてい
り、闘い以外にはなくなつた。
三月九日 組合無期限スト突入
三月十六日 十八名が組合脱退

受諾。
しかし操業は三月二十四日、二
十五日の二日間のみで、二十六日
から一方的な休業(賃金未払い)
を行ない、ついに六月三日に至
て再び社長は全員解雇を通告し
てきた。
七月一日 この間も組合事務所
に全員出動して団結を固めてきた
組合員はついにこの日、会社解散
し、擬装倒産におもむいた。
苦悩の中から体制

けで、家族から遊びに行くよう
なもので、早く他に職をさがし
てくれ」といわれる中を、歯をく
しばって頑張ってきた。
この中で、みんなの生活と闘
いを受けるために物品販売とアル
バイトが開始され、外部の支援も統
々と組織されていった。
一万五千円の生活
はじまる
まず、同労組の上部団体である
食品労連(九万五千人)が一八
円カンパを決定し、福島食品の組
合員もお茶とヨーカンを持って、
八女、筑後、大牟田の各労組をま
わって販売をはじめた。

この資金を中心に、七月から組
合員一人あたり月一万五千円の生
活費の支給がはじまった。生活費
は本人給一万五千円、妻がある人
は三千円、親を養っている人は一
人当り三千円、子供一人二千円と
いう諸手当までついている。
八女地区労を中心とした共闘会
議の働きかけと、売りにまわる組
合員の熱心さで、物品販売も予想
以上の利益をあげている。
七月一カ月間の売上は、ヨー
カン約八千本、利益約四十六万五
千円、お茶約四千六百本、利益約
二十二万円、合計六十八万三千円

未払賃金をかちとる
去る七月二十三日、ついに組合
側ははげしにねばって、三月、四
月、五月分の賃金を全額かちとる
ことに成功した。

失明の中川さんに
拍手惜しみなく……
のは、なんといっても、六月二十
七日に判決が出た身分保全の仮処
分裁判を闘ってきた人々が見た
元気の姿だ。
中でも同裁判に勝訴した十一人
の一人中川末義さん(大牟田市議
時代)、ふとしたことから失明し
た人が、妻のちよかさんにつ
き添われながら、足先で道をさぐり
とができました。これは長年にわ
たって、皆さんの暖かい友情にさ
はけしみな拍手をおくってほ
めました。
中川さんは近づけてもらった

とはいえ、他の多くの仲間の正
しい主張は葬られ、敗訴となりま
した。命を守るためにこを闘った
職場活動家に対する、経営権を
りかざした一方的な首切りだ
ことを思えば、この不当な判決を
認めざるを得ません。私たち
もまた全員勝利を勝ち取る日まで
闘いつづけることを決意してお
ります。今後とも暖かい支援を
お願いします」
みんなが座っている方向に耳を
すましながら、語りかけた中川
さんに、再びみんなの風のような拍
手がこたえたことは述べるまでも
ない。

全電通労組京都のみなさん

ほんとうにありがとう!

七
月十六日
のこと、
三池労組
に思いが
けない集
団来訪が
あった。
全電通
労働組合
京都支部
の青年常
任委員長
山本必勝
さんら五
十人の若
者たち。
見ればバ
スでの遠
乗り(北
九州の旅)で、この三池訪問を
しめての旅行は、わざわざ、そ
の後の三池を訪問する会をつ
くって計画したこと。そういえば
組合役員やCO家族と交流する
たち、ありがとう。

「自分たち一人ひとりのために
働きに行っているのに、出張先の
職場のみんなに聞いて話をし
て、また果敢(食品労連の単位)
の取材班の方がカンパの菓子な
どもを、ご苦労様です、と
つづけてもらいましたが、涙が
あふれだした。職場の皆
さんにも一緒に食べてもらいま
した。仕事は苦しいが頑張りいま
す」
連帯と交流を

増嘉組合長は語っているが、大衆